

# 都市にも近い田舎暮らし



▲ 移住してすぐに生まれた長女の花音(かのん)ちゃん、妻の由衣さんとの3人での田舎暮らし。「自然豊かな環境で、のびのびと育てほしい」と神内さん。



種まきから収穫、害獣対策に4つの畑を行き来する。移住するに当たって和歌山県の就農支援センターで研修を受けた。自然農法にこだわり、市販の苗は使わず、原則種から育てている。

紀伊半島の西部、日高川流域に広がる日高川町。青々と葉をつけたニンジンや珍しいハヤトウリ、アンデス種の赤いジャガイモなど、とれたての野菜が、かごの上上山盛りされていった。「ここまで育てるのは苦勞の連続でした。昨年はイノシシやシカにだいぶやられましたから」。農業を営む神内義博さんは、日焼けした顔に、満面の笑みを浮かべた。

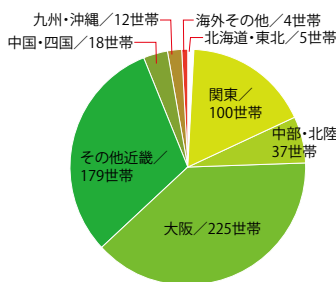
元々は大阪府内でメディアカルトレーナーをしていたが、自身の病気がきっかけで、健康や食への関心が高まり、「安全な野菜を自分で作ろう」と2011年、39歳のときに移住を決断。五島列島などいろいろな田舎を見学してまわった。日高川町へは延べ4回も下見を行ない、じっくり現地を見て検討。県の支援策はもとより、大阪にも車で1時間

圏内と近く、野菜の配送にも便利なのが決め手となり、同町の移住を決めた。現在は近所の畑を4カ所借り、肥料を使わない自然農法で年間80〜100品目を少量ずつ生産し、スマートフォンアプリで販売。「安心して食べられる」とリピーターも増えている。自宅離れを改装して農家民泊「花の首(はなのね)」も始めた。「まだまだ暮

らしは大変ですが、都会のような喧騒もなく、ここできないこともある。何より子供の育つ環境としてよかったですと思います」。移住後は、同町の移住受入協議会のメンバーに加入、自身の体験を活かし、移住希望者の相談に応じる他、田舎暮らし現地体験会での案内役を務めるなど、地域の活性化の担い手としても活動している。

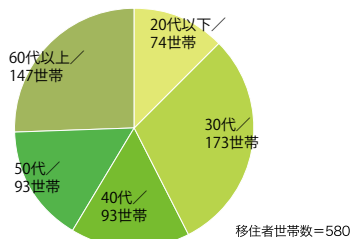
## ■移住者データ (H27.12末現在)

### ■移住前の住所地



### ■移住者(世帯主)の年齢層

40代以下の若年層の移住は約60%



## わかやま暮らしを応援します～移住・定住大作戦～



わかやま定住サポートセンター [東京]

### 相談窓口

東京・大阪にも「相談員」を配置し、移住に関するあらゆる相談に対応。和歌山への移住の第一歩をサポートしています。

【東京】わかやま定住サポートセンター  
電話/03-6269-9883

【大阪】大阪ふるさと暮らし情報センター  
電話/06-4790-3000

【和歌山】わかやま定住サポートセンター  
電話/073-422-6110

田舎暮らし応援わかやま <http://wakayamagurashi.jp/>

### 「くらし・しごと・住まい」の3つの支援策

#### くらし

- ・若年移住者への奨励金
- ・現地滞在費の補助
- ・現地体験会の開催

#### しごと

- ・移住者起業補助金
- ・移住者農林水産業就業補助金

#### 住まい

- ・空き家バンクによる空き家の仲介や改修補助金
- ・家財道具の整理撤去費助成